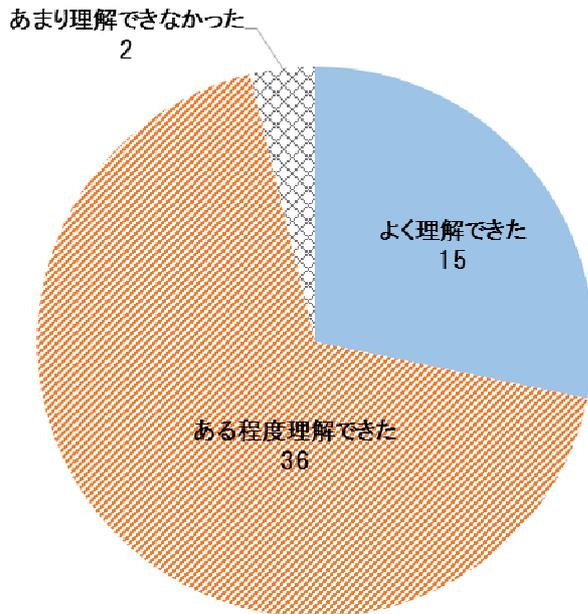


第2回島田市公共施設マネジメント職員研修会 アンケート結果

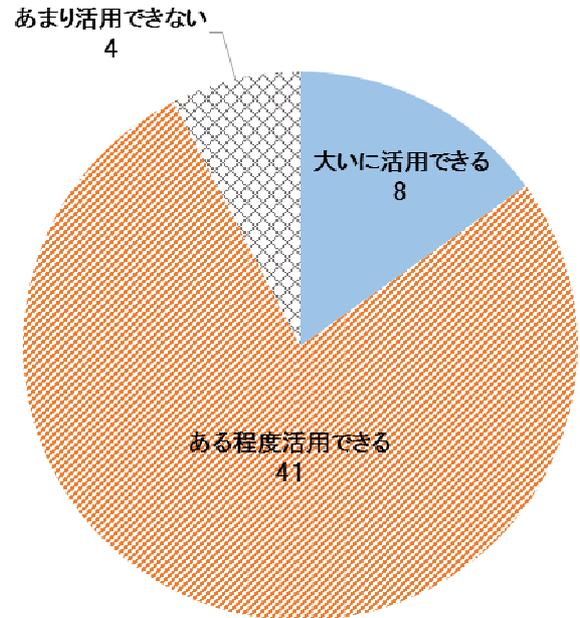
1 回収数 53件

2 回答内容

問1 研修の内容は、どの程度理解できましたか。



問2 研修の内容は、あなたの担当する業務の見直しや、市の仕事全体に対する考え方の見直しに向け、どの程度活用できそうですか。



問3 建築保全センターの池澤氏の講演は、いかがでしたか。

<p>小手先の取組ではなく、本質へのアプローチが重要との講師の主旨に賛同する。 「社会的共通資本とは何ぞや」「行政サービスとは何ぞや」という概念論からのアプローチをしなければ、真の公共施設マネジメントに至ることは困難と考える。</p>
<p>当市では池澤さんのような発想を生かす場はあるのかと思われました。</p>
<p>同じ立場の人の話であるので、わかりやすかった。 資産の有効活用！ につきる。</p>
<p>今回、この内容の研修を企画した意図がよくわからなかった。 手法を変更することとか、ステップが変わるってことを検討しているのかと思いました。 研修目的を表示していただいていると良かったと考えます。</p>
<p>公共施設マネジメントを推進するためには、タテ割り（職員の意識）をなくす必要があると思います。</p>
<p>情報収集と発想力、現実的に実行できる妥協点（着地点）を見極めることが重要だと思った。</p>
<p>個別の案件の事情はわかったが、「市の方針」としては何か全体的な意思統一があったのか。 単に金がないから工夫することになったのか。</p>
<p>実務として、公共施設マネジメントに取り組もうとする場合に、方法論として具体的に整理されているので解り易かった。焦点が絞られているので明解だった。</p>
<p>視点、考え方を変えた取組が必要だと痛感した。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・講師が同じ公務員出身ということから、事例の紹介がわかりやすくて内容を理解しやすかった。 ・「市民の理解」が仕事をやり易くする基本であることは十分承知しているが、すべての市民が同じ方向に向いてくれることはありえない。職員同士でも同じことは言える。「まずは職員の意識改革」が必要である。
<p>わかりやすく、聞きやすかった。とてもためになった。</p>
<p>結局、部局横断での戦略的チームがまちづくりをキーワードに施設運営（経営）を考えること。 そのやる気スイッチが入るような講演内容だったかということ???である。前回の焼き直しの感が・・・</p>
<p>良かった。</p>
<p>10年前に計画する、継続が必要。なんとなく予算ではだめということがわかる講演だった。</p>
<p>現実的な対応、施設の具体例が聞けてよかった。</p>
<p>たくさんの方の施設管理を行うなかで、長寿命化を進めています。大変参考になりました。自治体OBの先生の講話だったので良かったです。</p>

すばらしい。
実務がベースの話で良かった。 島田市も根本から見直しましょう！というまちづくりにするかがグラグラだよ。
外向けの形式的な話ではなく、同じ公務員の立場の話が多くて実務的に受け入れることができた。 過去の業務の中で大いに参考（活用）できることがあったと思える。 今後の業務でもその機会はあると思う。
1 BMの再建を担ったルイス・ガースナーの言葉を思い出しました。 「今現在の1 BMに最も必要ないもの、それがビジョンだ！」 これがビジョンが不要との意味でないことは推察のとおりです。
今回の講演では、主に仕掛ける側の戦略についての内容だったと思うが、他課との調整についてあまり語られておらず、金谷庁舎移転の関係で苦慮している当課にとっては、非常にその点を伺いたかったところもあった。
講演を通して理論的というよりも、池澤氏の個人的な「切り口」がとても興味深かったです。節電対策が学校のプールの電気使用量の発見となり、最終的に授業内容自体を変えてしまったケースなどは、公共施設マネジメントが独立した仕事ではないことを示しているように感じました。
市民への説明において、過去の経緯や資料などの将来の計画設計より、「今、どうしたいかの結論を先に先方に言うことが大事であること」が印象に残った。 事例は教育委員会関係の建物事例が多く、その他の事例等の話しをもう少し時間を取っていただき、失敗例を交えながら講演時間が欲しいと思いました。
現場の声というか、施設というよりは、事業をどのように継続又は展開していくかの視点であったと思います。身近なものからの積み上げていく手法、先に計画ありきではない手法に実学を尊重していると感じました。 このような、手法であれば、職員も疲弊せずに対応できるのではないかと思います。
とても熱意のこもったご説明をいただき、仕事に対する姿勢、向き合い方について、とても勉強になりました。 また、部署・所管を超えた協議が必要であると感じました。 あげられた事例が、効率的な設計・施工を実現されているように見え、とてもうらやましく感じます。講師の「被災地の庁舎・学校を見て、コア（な所管）と市民と接する所管を分けた方が良いと感じた。」との言葉、そのとおりだと思います。所管部署の事業運営担当者が市民・関係機関・他部署職員の意見に左右されながら大胆な提案を実現するのはなかなか難しいように感じます。
<ul style="list-style-type: none"> ・実施計画で手につけやすいものから手をつけるという考えは島田市でも取り入れるべきだと感じました。従来のやり方も並行して進めていく必要があると思いますが、なかなか形になりにくいし、民間のスピードについていけないと思います。以前研修会で、講演された流山市も同じような形で、事例が多くあったかなと記憶しています。 ・まちづくりのランドデザインは、再構築する必要があると感じました。島田ってどんなまちづくりをしているかと問われても、緑茶化計画だけでは、都市政策と言えないかなと感じました。また、計画には行政用語が多く、市民には伝わりにくいので、計画の概要はもっとシンプルにまとめるべきだし、計画の中身も選択と集中が必要であると感じました。住民を増やすという、仕事を増やす、一極集中を是正するという発想と並行して、人口減少社会を見据えてまちづくりしないと今後はいけないと感じました。 ・このような研修会を元に各課が施設の改修をする際に、財政課と連携して、ESCOでやってみようとか、改修前後のエネルギー経費を比較する等できれば、小さな公共施設マネジメントの取組が進んでいくため、各課、各担当者の意識の向上が非常に大事だと思います。
不慣れなためわかりにくい点もありましたが、わかりやすく講演していただき、公共施設をどのような視点で考えていけばよいか、理解できました。また、杭を打ち込んだ建物は60年間あり続ける、ということ踏まえて計画を立てていかなければならないことは衝撃的でした。施設は誰のための何のためのものかを考え、そのためにどのようなものが必要かを考えていくという、当たり前ですが重要な考えを再認識できました。今後に活かしていきたいです。
目の前の現実的な視野に立ち判断することは当然重要と思われるが、今回の研修内容だけではただ、参考として今回のような考え方もあるのではと言うくらいではないのか。 事例の具体的な内容がわからないので参考にしようがない
長年の実務の経験、特に失敗談をお話しいただいて、とても参考となった。
地域創生の手法のモデルケースを得られたことが収穫でした。他方、お話を伺う限りでは大きな法律上の問題は生じていなさそうで、その意味では参考にならなそうです。
<ul style="list-style-type: none"> ・説明は判り易くて聞いていて参考にできることが多くよかった。時間の制約があり、個別の案件の説明が少ないのは残念であった。 ・前回の研修会に参加した時も思ったが、島田市で実施する場合は専門的な部署を充実することと、他人事だと思わない職員の協力が必要であると思った。
取組姿勢に対する再確認ができた。
事例を多く紹介してくれて、大変分かりやすく、参考になるものでした。 誰のためにマネジメントを進めるのかを再認識しました。総論賛成、各論反対の状況の中で、島田市も単に廃止する、統合するだけではない、住民も満足する現実的な方法を探る必要があると思いました。
実績に基づいているため説得力があり、話し方も上手で、聞きやすかった。
講演の内容はわかりにくかったのですが、既存概念にとらわれず、柔軟に現実合ったやり方を探していこう、方法はいろいろある、という趣旨であったかと思いました。 その精神を取り入れて行きたいと思います。

<p>総論と各論が行きつ戻りつの説明で、論旨が分かりにくかった。</p> <p>水道、下水道、道水路は、所管課でマネジメントを行うことになっていると思うが、こちらにも財政課が関わっていかないと、真のマネジメントができなくなる恐れがある。所管課は、現状維持のバイアスにより、スクラップができないと思われる。</p> <p>公共施設マネジメントは最重要であるので、ぜひとも、財政課で音頭取りをお願いしたい。</p>
<p>施設の数や規模を縮小することがマネジメントではなく、“経営する”という視点から施設を見直すことで無駄な経費を削減し、持続可能な行政経営を行うこと。無駄を減らすだけでなく、併せて、市民サービスの向上を図ることが重要であると再認識しました。</p>
<p>話し方が堅苦しくなく、とても聞きやすかったです。実際にご自身がされた話を踏まえてくれたので、今の自分の仕事と照らし合わせながら聞けました。</p>
<p>公共施設の維持管理については、老朽化する施設の修繕や更新が集中することからの経費の確保や財政負担、安全面等、非常に大きな課題であるという認識はあるものの、正直切迫感がなかったというのが本音です。今回“目の前の現実的”といったところで、外壁が落ちてきたという現実を突きつけられた場合の怖さ（島田でも起こるかもしれない）は感じたところでした。</p> <p>また、総合管理計画の中で管理に関する基本的な方針は示されていますが、具体的な対応、考え方について、いかにコストを抑え資産を有効活用するか柔軟な発想が大切であり、どこまで活用できるかは正直よくわかりませんが、参考になったと思います。</p>
<p>前回の講演と同様に今後は、課の担当する業務だけではなく他部他課との連携を行い、市として総合的に公共施設マネジメントを行っていかねばならないと感じました。</p> <p>今までは、建替え検討時期については曖昧になっていたため今後は明確に決めていかねばならないと思いました。</p>
<p>前回の研修会もそうでしたが、「公共の担い手」ということを考えられるお話でした。</p> <p>スイミングスクールで学校の水泳の授業を実施するという発想、別の分野でも応用できればと思います。</p> <p>とかく厳しい財政状況や人口減少への対策として施設を削減することが注目されがちですが、まちづくりの視点に立って市民に説明することなど、この問題の本質を改めて確認するとともに、今後の取組に向け心構えを新たにすることができました。貴重なお話をいただきありがとうございました。</p> <p>主催者側の設定時間がやや短かったのが残念です。公園からまちづくりを考える事例などについて、池澤さんのお考えをもっと拝聴したかったです。</p>
<p>技師でありながら、ハード・ソフト両面で行政運営を捉え、業務として実行している点が大変勉強になりました。</p> <p>市民への伝え方の工夫や、各種事例について、もう少し詳しく聞きたいと感じました。</p>